

# まつもと 公民館報

発行  
2014  
7/30



シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 14

(撮影 2014.6.14)

## = 144回目を迎えた市民の手作りの輪がひろがる = あがたの森サタデーコンサート!!

自主活動で  
音楽を楽しもう

梅雨の合間の6月14日  
(土)夕方、144回目を数  
えるサタデーコンサート  
が、あがたの森講堂で開催  
されました。

昭和55年1月26日に一回  
目のサタコンが始まって、  
あしかけ35年間継続されて  
います。

①市民の手作りによる生の  
コンサート  
②家族ぐるみで気軽に参加  
できる楽しいコンサート  
③身近な演奏家や団体が出  
演するみんなのコンサート  
というサタコンの運営理念  
で、これからも続いていく  
ことを願っています。

# きめ細かな運行波田の循環バス

波田地区では、松本市との合併によって廃止となった町営バスの代わりに、独自のバス運行を実施しています。事前に地域交通の現状を調査し、運行開始後も利用状況の再調査を行うなど、関係者による努力が続けられています。

## 町営バスが廃止に

旧波田町では、おもに高齢者の買い物などの不便を解消するため、循環バスを運行していました。平成23年度の松本市との合併にともない町営バスは廃止となりましたが、年々確実に進む高齢化を背景に、地域交通の問題が再度表面化してきました。

市内どの地区にも共通していえませんが、現在の交通事情は、高齢者の立場からすると買い物や通院などに必ずしも便利とはいえません。波田地区にも上高地線・西部コミュニティバス・タクシーなどの交通手段がありますが、運行時間や間隔、最寄りの駅や停留所の位置といった点で、利用者は不便を感じているのが現状です。

## 運行準備と組織の立上げ

平成24年6月、地区福祉ひろば事業推進協議会を母体とし、運行に向けた準備が始ま

りました。会では交通不便者や高齢者、温泉施設の竜島温泉や松本市立病院の利用者などから、地区内循環バスの運行の提案を受け、おおよそ300人のアンケートから運行の時間帯や曜日などを検討しました。

25年4月には波田地区循環バス運営委員会を発足、この時点で名称を「まちづくり協議会」に改称しました。車両運行はタクシー会社に業務委託しました。

## いよいよ運行開始!

波田地区循環バスは平成25年8月から運行を始めました。協議会では少しでも効率的な運行を図るため、乗車中の利用者への聞き取りなどを実施し、路線や停留所の場所、運行曜日や時間帯の見直しを行いました。

利用者は乗車ごと100円を負担する循環バスですが、財源としては、県の元気づくり支援金が30%、市の補助で



「今日はどこまで行きたい?」

35%、残りが地区町会連合会からの負担金で、一戸当たりで換算すると100円程度の負担です。

## 運行状況は好調

現在、交通事情の異なる地

区を東部・中部・西部の三つに分け、どのコースも松本市立病院・西部保険センター・上高地線のいずれかの駅・買い物ができる施設・竜島温泉を循環するようになっています。

一便ごとの平均乗降者は3・8人と好調で、特に竜島温泉直行便は16・5人と良好な乗降者数を確保しています。

今後の運行についても、コースの見直しを都度行うなど、きめ細かなフォローを続けることで、さらなる利用者の拡大を目指しているとのこと。

また、次年度以降は自主財源の確保が大きな課題とのこと。

## 地域住民の足として

町営バスという下地こそあったものの、利用者のことを一番に考えた循環バスの立ち上げには、多くの手間が掛かったものと思います。

これからも利用者の皆さんとバスの運転手さんが、停留所の青いのぼり旗をはさんで、「ねえさん、今日はどこまで行きたい」「お湯へ入りに行くだね」などという温かい話が交わされる、地域に密着した地区循環バスであって欲しいと思います。

## 写真が伝える松本の今昔

— キッセイ文化ホールでパネル展 —



昔懐かしい写真が並んだ特設コーナー

本紙5面に連載中の「まつもとの今昔」で掲載された写真が、キッセイ文化ホール(県文化会館)の2階特設フリースペーで、8月3日までのパネル展示されています。この展示は、キッセイ文化ホールが「まつぶんギャラリー」ふおと広場」として企画したもので、写真は全市版編集委員会が提供しています。平成23年7月30日号から掲載が始まった「まつもとの今昔」は、市内の街並みを写した昔の写真と、同じ角度から撮影した今の写真を並べ、街の移ろいを伝えるコーナーで、今号で16回目となります。ホール担当者に聞いたところ、新聞を見て展示目当てに訪れる人もいるそうで、反応は上々のようです。

# 歴史と文化をつなぐローカル紙

平成24年の調査によると、アンケートに回答した441町会中、117町会が公民館報や町会だよりを発行しています。その中でも歴史の古い島立南栗町会・清水西町会の2町会の公民館報を紹介します。

## 「みなみくり」

南栗町会は戸数約220です。公民館報は年一回の発行で、昭和26年の創刊です。残念ながら第1号は現存していませんが、2号からは保存されています。町会の文化部が中心に編集し、5号毎に特集号を出しています。

初期のものはガリ版印刷、A4判6ページで、活動報告に「納税部」「産業部」といった文字がみられます。投稿された文芸・随想なども掲載され、生き生きとした公民館活動の様子が伝わってきます。現在ではカラー印刷も含む数十ページのものになりました。



「みなみくり」を手にとる上條信館長

## 「区民だより」

公民館長の上條信さんは、「今年は小学生が60人ほどおられます。ここから受け継いでくれる人が何人出てくるか、将来が楽しみ」と語っていました。

清水西町会は専任の文化部長を中心とした7名で作成しています。年1回12ページの体裁での発行です。昭和37年に創刊しました。



「区民だより」を前に清水西の文化部員

## 写真でつづる まつもとの今昔

～ あがたの森公園 ～



昔

(1979.7 写真提供：日本報道写真連盟) あがたの森公民館が開館(1979年10月)する前の広場。奥の一段高いところは運動場だった。



今

(2014.7.1 撮影) 国の重要文化財に指定された校舎とともに、芝生と樹木に囲まれた公園は住民の憩いの場になっている。

第1号に発刊の趣旨として「ただ広報というだけでなく、多分に文化性を織り込んだ香りの高い刊行物でありたい」とあります。家族が書いたものを子どもたちから見ていたので、自分もまた記事を書く、と世代を超えて受け継がれていきます。また、転入者が新鮮な視線

でとらえた記事を積極的に寄稿してくれるので、大きな刺激になるそうです。最近はずいぶん写真・作品なども多く載せています。貴重な記録を紙媒体として残していくことに意味がある、と前文化部長の穂刈正昭さんは話しました。公民館報・町会だよりは、往々にして事業報告的なものになりがちですが、地域の文化的な発表の場としての大きな力も持っています。受け継がれてきた公民館報・町会だよりがあり、そこに集う住民がいます。これが、町会が一つにまとまる大きな力であることに間違いはないでしょう。

## おこひる

私たち夫婦は今年還暦をむかえる。去年から今年にかけて子どもたちが次々と独立し、4月からは私たち夫婦と黒猫一匹の生活になった▼若い書家の友人が、額に入れた書を私に届けてくれた。「辛い」という字がある。もう少しで「幸せ」になれそうな字である」という星野富弘の言葉を自分で書いたと記してくれている。それを見るたび、頑張れそうな気がする▼先日、子どもたちが還暦祝いを開いてくれた。その席で突然赤いチャンチャンコと頭巾を出され、夫と子ども大いにテレした。後日、大黒様とえびす様のめおと写真が仕上がった。赤い還暦衣装が意外と似合った▼私の両親は短命で、父などは還暦をむかえることなく逝ってしまった▼私も母と同じ60代で彼岸に旅立つことがあるなら、この写真を遺影にしようと思う。



地域探訪

歩まごつ松本!

18

東部ウォーキングコース

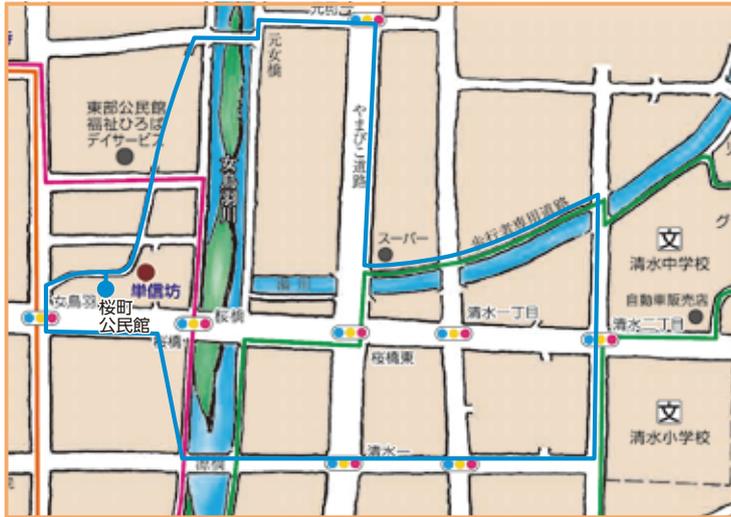
出発点、桜町公民館の裏小路に出ると右手に単信坊という子どものためのユニークなお堂があります。

単信坊上人は子どもたちとよく遊び、物心両面で支えたといえます。縁日では参拝の子どもたちにあんころ餅がふるまわれます。鈴を鳴らしてお参りしたら

人一人通れる路地をそのまま進みます。

左に東部公民館を見て突き当たると元女橋に出ます。女鳥羽川に架かる、人と自転車専用の珍しい橋です。

橋の上から上流下流の景色を見て、やまびこ道路の東側の歩道を右折します。少し進み、湯川橋手前を左折します。



※今回歩いたコースは青線

この湯川沿いの歩行者専用道路が四季を通してすばらしい。桜並木や花々、舗装された歩きやすいバリヤフリーの道路、安全がいかに心やすらぎを与えらるかを実感します。すぐに清水境橋に出ます。目の前が清水中学校です。正面玄関に向かいます。

前庭には、標高608メートル、北緯36度・東経137度と彫られた石柱や生徒の理想像(すなおさ若々しさ たくましさ ゆかさ) 記念碑が設置されています。信号を渡り、清水小学校グラウンド横を抜けて、南門を右折します。正面にアルプスを見ながら直進すると、7月初め、架け替えが完了したばかりの源橋に出ます。橋長35・1メートル、幅員9・25メートル、塗装せずに錆層で内部を保護する耐候性鋼板、3本あった橋脚をなくし歩道を新設、技術の粋を集めた美しい橋です。新しい橋はとにかくうれしい。行ったり来たりして右手の路地に入ります。左手に製糸場跡地。その奥に桜町公園が見えます。メイン道路にできれば桜町公民館です。



自転車と歩行者専用の元女橋

わがまち自慢 第1回

波田少年少女合唱団が快挙

波田地区を拠点として活動する波田少年少女合唱団が、5月初旬にベルギーのニールペルトで、25か国100団体に参加して開かれた第62回ヨーロッパ青少年音楽祭に日本代表として出場し、その中金賞を受賞しました。

波田少年少女合唱団は2006年に波田小学校合唱部出身者を中心として結成され、

いまでは松本市内外から歌の大好きな子供たちが集まり、小学4年生から大学生まで50数名が在籍しています。新聞やテレビで報道されたこともあり、6月21日に行われたアンサンブルコンサートでは会場となったアクトホールは満席となり関係の皆さんは喜びと入りきれなかったお客さんへの対応に追われていました。次回定期演奏会は12月23日松本市音楽文化ホールにて開催されます。

是非感動のステージをお楽しみ下さい。



ヨーロッパの参加チームと一緒に

地産地消のかんたんレシピ

酸味が引き立つ 『りんごの赤白ワイン煮』

季節外れのりんごが立派な一品に!!

材料: りんご、赤ワイン、白ワイン、砂糖、シナモン

- 1. りんごを八等分に切って、皮と芯をとる
2. 鍋に赤ワイン・砂糖・りんごを入れて煮る
3. 別の鍋に白ワイン・砂糖・りんごを入れて煮る
4. 途中でシナモンを加えて煮詰める

